太宰府中学校２学年だより

№11　　R１.6.12　　文責：石橋　眞子

言葉は　自分に「返ってくる」

今回は、少々厳しいことを書きます。
私は、皆さんの行いのよいことも、そうでないことも正直に書きます。その裏には、皆さんの本来持っている「優しさ」や「素直さ」等の「良さと持ち味」をもっと表に出して、もっとすてきな学年になってほしいからです。皆さんが受け止めてくれることを願って。

この間、校長先生による全校道徳が行われました。
校長先生がいつもおっしゃっている「失敗はしてもいいいんだよ」「失敗の反対語は成功ではない、何もしないこと」から始まり、皆さんを励まし、勇気づけた後、「しかし、絶対やってはいけない失敗がある。それは『いじめ』である。」と、いじめについて話されました。

途中、全校生徒の意識調査も取り入れながら、40分間、校長先生の思い「皆が安心して過ごせる学校」を熱く語っていただきました。

校長先生の話は、多くの生徒が心にずしりと沁みたようです。
自学ノートなどに「いじめは絶対にいけない」などの感想を書いた人や、「心に響いた」と感想を述べた人もいました。皆が「自分の事」として捉えてくれたことはとても嬉しかったです。
私も「いい授業だったな」と学ばせられました。そして、ある「気になること」が頭をよぎりました。それは「言葉」です。

校長先生の話に、「言葉によるいじめ」について話がありました。自分が言ってほしくない事を言われたら、ずっと心に残る深い傷を負うとおっしゃいました。

振り返って、皆さんの日頃の言葉（言語環境といいます）はどうでしょうか。
相手を見下したり、小馬鹿にする言葉が飛び交っていませんか。
相手が勘違いで失敗したことをからかう言葉や、相手の成績や点数、部活動での活躍の差を自分と比べてバカにする言葉を発していませんか。
残念なことに、ここに書くのも嫌になる言葉を聞くことがあります。
さらに残念なのは、注意された先生に対して、「自分ばかり注意する」と腹を立てて、反省しない姿を見ることです。　見聞きすると、とても悲しい気持ちになります。

言葉には、目に見えない力が宿っています。以前松本人志さんのテレビ番組で、熊本の方達を支援したいという強い思いでツイートしたことに対して、必ず中傷の書き込みをする人がいるという話をされていました。
松本さんは、怖い世の中になったものだと理解に苦しまれている様子で、本当に何かをしたいと思って純粋に思いやりの気持ちから行った行為が、いくら少数の人数であったとしても、松本さんの気持ちを深く傷つけたのです。
悩む松本さんに対して武田鉄矢さんは、「そういう言葉を放った者は、必ずその人の元に跳ね返るんだよ」という内容のことを話されていました。
言葉は自分に返ってくるということです。どういうことでしょうか。

日本では昔から“言霊（ことだま）”という考え方がある。
文字通り、言葉に宿っている不思議な霊威や霊性のことをいうのである。
相手に対し、言葉を投げかけるのは、意思内容を伝える為だけのものではなく、同時にあなたの魂をも送り届ける作用であり、それは発した瞬間に、あなた自身をも縛るものになることを意味しているものだ。
日本人は、言葉のもつ不思議な力、奇妙なはたらきに、古代からずっとオカルト的神秘性を見出してきたと言ってもよいだろう。
－ 頭のいい人が使うモノの言い方・話し方 (神岡真司)

先日、ある生徒の自学ノートに「昨日は、迷惑をかけてすみませんでした。」と書いてありました。この生徒がどこで・どのような迷惑をかけたか私はわかりませんし、知ろうとも思いません。そんなことより、この生徒が先生に「心を伝えた」ことに深く感動しました。

この生徒の「自分の弱さを認める勇気」をこめた言葉は、おそらく先生の心を強く揺さぶったと思います。この生徒に限らず、太宰府中の２年生の皆さんは、皆同じような優しさ、素直さ、暖かさを持っていると思います。

シャトルランで最後まで走り通す仲間を全員で「頑張れ～！」と励まし、
大縄跳びでは苦手にしている仲間の体を支えて「大丈夫だ」を声をかけて一緒に跳び、
教え合い学習では「この反応式は～だからここに２がつく」と助けあう言葉が飛び交い
問題があたって答えがわからない仲間に「答えは◯◯だよ」とそっとささやく。

「今日◯◯さんが、こんなことをしてくれた。」「◎◎さんが授業中頑張ってた」と聞いたときの、担任の先生のすてきな笑顔。

言葉は「自分自身を伝える心」です。あなたの言葉が、あなたの仲間に「すてきな人だな」と伝わるようになるといいですね。